



団体名 東京都小学校社会科研究会

団体の概要

昭和26年の発足から70年間続いている歴史ある社会科の研究団体です。現在、3年から6年まで4つの研究部会に分かれて、日々の社会科授業の実践研究をしています。教材開発、指導方法、評価、学習指導要領社会科の実践など、各部会で年2～3回ほどの研究授業を中心に、都内各地の学校に集まり、学び合っています。

研究テーマ

社会とつながり未来を創る子供の育成
～社会的事象の見方・考え方を働かせ、
主体的に問いを追究する社会科学習を通して～

研究のねらい

社会的事象の見方・考え方を働かせながら、児童主体の問題解決的な学習を展開し、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を統一的に育む実践を積み重ねながら主題及び理論の充実を図る。

研究の内容

- 教材の開発や教材の分析
 - ・東京の良さを再認識し、都民として愛着がもてる東京らしい教材
 - ・人々との生活や社会的事象の関連について、共感的に迫り、見方・考え方を働かせる教材
 - ・人の働きを共感的に捉える教材
 - ・社会の課題を捉え、発展や関わり方を考える教材
- 手立てに基づいた授業づくり
 - ・社会的事象の見方・考え方を働かせて、主体的に追究する問いの工夫や学習活動の工夫
 - ・子供の学びを確かにする評価の工夫

研究の成果と課題

- <成果>
 - 各学年で教材の開発や教材を分析し、新たな学習内容や学習の方法を検討し実践した。
 - 単元指導計画の教材構造図、見方・考え方が働く、問いの構成図を作成することで、ねらいに迫る学習となった。
 - 令和5年度の全国大会東京大会を目指してオール東京の体制で、開催4会場で地区委員会を実施し、研究の推進を図った。
- <課題>
 - 改訂版指導計画の実施の充実

今後の活動予定

《令和3年度 研究発表会》
日時：令和4年2月18日（金）
場所：台東区立忍岡小学校
1年間の研究成果を発表します。

代表者・連絡先

台東区立忍岡小学校
校長 吉藤 玲子
TEL:03(3822)4661
FAX:03(5685)3591



令和3年度東京都教育委員会研究推進団体 教育実践発表
東京都算数教育研究会



都算研のピンバッジ

円の中にレールローの三角形を位置付け、その中に「校舎」「先生と子供たち」「都算研シンボルマーク」を効果的に配置した斬新なデザインが特徴となっている。

団体の概要

東京都算数教育研究会（都算研）は、昭和 25 年（1950 年）に発足し、以来都内全ての区市町村の算数部員の研鑽と努力を結集し、その成果を東京都の子供に還元すべく、東京都教育委員会からの認定を受け、会員の献身的な取組によって活動を発展させてきた。

左のピンバッジは、本研究会創立 70 周年記念として作成した。中にあるカラフルな 4 つの三角形は都算研のシンボルマークである。この三角形は、「数学的活動」を中心に「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を表している。

研究テーマ

数学的に考える資質・能力を育てる指導と評価の在り方

本研究会では、過去 20 年以上にわたって、「数学的な見方・考え方」や「数学的な思考力・表現力」の育成に焦点を当てて研究に取り組み成果を上げてきた。学習指導要領に示された算数科で育成を目指す資質・能力とその評価の在り方について研究を深め、更なる指導の改善・充実を図っていく。

組織と活動内容

今年度は、各委員会に 106 名の委員が所属し、研究活動に取り組んでいる。

- **研究部**：東京都をはじめ、全国の公立小学校の算数教育の向上に寄与する。
 - ・ **研究委員会**：授業研究を中心に先進的に研究を進め、その成果を広める。
 - ・ **授業研究委員会**：授業実践を中心に研究し、よりよい授業改善を目指す。
 - ・ **実態調査委員会**：都公立小学校児童約 30 万人を対象に学力実態調査問題を作成し、調査を依頼する。実施後、その結果を集計・考察する。
 - ・ **問題作成委員会**：新領域に対応した問題を作成し実態調査委員会に提案する。
 - ・ **資料委員会**：学力実態調査結果の考察に基づいた指導改善資料を作成・検証する。
- **発表部**：本研究会の研究の成果を研究授業や発表会を通して発信する。研究発表会を毎年 10 月に行い、区市町村の各算数部からの公募を含む 6 つの授業提案と研究部の研究発表を行う。今年度は都算研 OB、都算研各委員等、参加人数を制限しての開催とする。
- **編集部**：会報及び研究紀要を編集・発行し、広報活動を行う。
- **育成部**：研究員として算数教育の中核となる教員を養成し、東京都の算数教育の向上に資する。
- **庶務部**：庶務全般を担当
- **会計部**：会計を担当

※詳しい研究の成果については、研究紀要や都算研のホームページ [<http://tosanken.main.jp/>] をご覧ください。

代表者 東京都算数教育研究会 会長
三鷹市立中原小学校長 内藤和巳

連絡先 東京都算数教育研究会 研究部長
調布市立布田小学校長 樋川宣登志
☎ 042-481-7652



東京都小学校理科教育研究会

団体の概要

東京都小学校理科教育研究会(都小理)は、理科教育の充実・発展に資するため、各区市町村教育研究会理科部会と連携し、研究・研修、人材育成、調査、広報等の諸活動に取り組んでいる。

研究テーマ

研究主題…「自然と向き合い、多様な考えを受け入れ、主体的に問題を解決する理科学習」

副主題…「評価を基盤とした指導による資質・能力の育成」

研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

- ①「理科の見方・考え方」を働かせて、資質・能力を育成する指導方法の工夫
- ②子どもの学習状況を分析的に見取り、指導改善に生かすための学習評価の工夫
- ③一人1台端末を活用した学びの効果的な把握
- ④領域別推進委員会ごとに設定する研究課題

取組内容

4つの領域別研究推進委員会(エネルギー・粒子・生命・地球)において実践研究を重ね、5月に研究全体会、10・11月に領域別発表会、2月に都小理研究発表会を開催し研究成果を広く周知する。

成果

- ①「理科の見方・考え方」を働かせて、資質・能力を育成する指導方法について研究を深め、授業実践として提案した。
- ②昨年度作成した評価規準を活用し、「指導と評価の一体化」を図るための適切な指導方法・評価方法について、授業実践として提案した。
- ③一人1台端末を活用した効果的な学びの把握について、授業実践として提案した。

課題

- ①「評価を基盤とした指導」について授業実践を通して検証し、子どもの資質・能力を育むための改善・充実を図る。
- ②一人1台端末を活用した効果的な学びについて研究を深める。

今後の活動予定

- 都小理研究発表会 —
- 令和4年2月7日(月)
 - 府中市立府中第一小学校
 - ・ 実践授業 ・ 研究協議
 - ・ 講演:文科省 鳴川 教科調査官

代表者・連絡先

<代表者>

足立区立千寿桜小学校 校長 田村正弘

連絡先: 03-3888-5356

板橋区立赤塚新町小学校 校長 田中薫子

連絡先: 03-3977-7811

東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会

研究テーマ 「新たな価値の創造 ～深い学びの実現を目指して～」

本研究会では、どのような世の中であっても、その変化に合わせて、価値や意味を創り出したり、更新したりしていく子供たちの育成を目指し、生活科・総合的な学習の時間の充実を図る研究を進めて行くために、研究主題を「新たな価値の創造」とすることとした。また、より生活科・総合的な学習の時間の特質を重視した研究にしていくために、「深い学びの実現」を副主題とし、それぞれの視点から以下のように分科会を設定している。

来年の11月令和4年度の全国大会に向けて、実践的な研究を組織的に推進している。

| 分科会 | 各分科会の研究主題 |
|-----------|---|
| A (生活) | 児童が思いや願いをもち続け、深い学びを実現していく単元づくり ～環境構成の工夫やカリキュラムマネジメントの充実を通して～ |
| B (生活) | 人との関わりを通して新たな気づきを生み出す指導の工夫 |
| C (生活) | 生活科の深い学びを支える表現活動の工夫 |
| D (総合) | ブレークスルーから始まる深い学び |
| E (総合) | 発達段階に応じた探究課題や振り返りの視点 |
| F (総合) | 子供の学びの必然性から生まれる多様な表現活動 |
| G (生活・総合) | 「その時子供が動いた」生活科・総合的な学習の時間の単元 ～「気づき」「探究」の質的向上を目指して～ |

10月研究会の事例 D分科会「ブレークスルーから始まる深い学び」

5年 総合的な学習の時間「5-1 減災・防災プロジェクト」 新宿区立落合第三小学校 大関 真英 教諭

単元の目標 (全70時間)

自然災害から多くの人の命を守るために、自然災害そのものや命を守るための対策などについて調べたり、地域で活動している方や防災の専門家と協働して、活動したりすることを通して、災害から命を守るためには、多くの方々の関わりや協力が必要であることを理解する。地域や学校の防災の在り方について考えるとともに、学んだことを生かし、自らの生活や行動に生かそうとする心情や態度を育てる。

【深い学びを目指して】リアルな人の存在に目を向けることで、目標が明確となり、深い学びを実現することができるのではないかと。

(本時のねらい)
地域の人へ減災・防災対策について伝えるために不安感を取り除き、地域の人たちに伝えたい具体的な対策や、共感していただけの方法を考える。

(展開)
○前時の振り返りから、「保護者や地域の人に伝えるために、自分たちが感じている不安感を確認する。
自分たちの心の不安から仙台の齋藤先生への質問を考えよう。」
○児童が仙台の齋藤先生への質問を考える。

(個人→グループ→全体)
○学習のまとめと振り返り



【成果】

- ・「関わり方」が大切
→GTに関われれば探究の質が向上するのではなく、GTの思いも大事にして一緒に探究をつくっていく。
- ・「関わり」を大切にすることで、課題が更新され、児童の熱量が上がる。
→探究の質が高まる＝深い学びにつながる

【課題】

- ・具体的にどんな変容があったか検証が不十分
→検証方法を確立し、質的評価、量的評価をしていく必要がある。
- ・効果はありそうだが、分類がいまひとつ。
→手立てと効果の精選をしていく。

今後の活動予定

◆冬季研究会◆
令和4年2月26日(土)9:15-
会場：武蔵野市立境南小学校
※本研究会に興味のある方は、ぜひご参加ください。

代表者・連絡先

代表者：武蔵野市立境南小学校 校長 宮崎 倉太郎
連絡先：新宿区立落合第三小学校 校長 清水 仁
03-3565-0941 hitoshi.shimizu@city.shinjuku.lg.jp

東京都公立小学校家庭科研究会

団体の概要

本会は東京都公立小学校家庭科研究の充実と発展を図り、小学校教育の目的達成の為に研究を深め、各区市研究会相互の連携を円滑にすることを目的とし、主に以下の活動している。

- (1) 家庭科教育に関する研究をする。
- (2) 会員の教養を高め資質の向上を図る。
- (3) 会員相互の連絡と親睦を図る。

研究テーマ

よりよい生活を自ら創り出す子供の育成

研究のねらい

自分の生活をよりよくするために、既習の知識及び技能を基に問題を見だし、課題を設定し、解決する力を養い、主体的に実践する子供を育成するための指導のあり方を研究する。

研究の内容

家庭科の日々の授業改善を目指し、下記の四つの視点をもちながら、授業研究・実技研修を中心に研究を進める。

- ◆視点1: 児童の系統的な学びを支える指導計画の工夫
- ◆視点2: 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ◆視点3: 学びの成果を次の学習へとつなげる評価の改善
- ◆視点4: 家庭や地域との連携・協働

成果

- 題材の系統性や他教科等との関連を図った指導計画を立て、各区市における授業実践において、目指す資質・能力を明確にし、授業改善を行うことで、学びの質を高めることができた。
- 「何のために家庭科を学ぶのか」を児童に実感させるためのガイダンスについて研究を深めたことで、各題材において児童が自分の成長を実感し、主体的に学ぶ姿が見られた。

課題

学習指導要領に示された資質・能力の育成に向けた主体的・対話的で深い学びの視点からICTの効果的な活用を研究していく。

【東京都公立小学校家庭科研究会
研究発表会】

日時 令和4年2月14日(月) 14:00~

場所 大田区立赤松小学校

代表者：
大田区立赤松小学校
校長 飯島 典子
代表電話：
03(3729)0937



東京都小学校体育研究会

団体の概要

東京都における小学校の体育研究の振興を図ることを目的とした研究団体であり、小学校体育科における今日的な教育課題について実践的な授業研究をもとに検証を行い、一般化を図っている。

研究テーマ

一人一人の子供が自ら深い学びを実現していく体育学習
研究の視点 子供一人一人が自らの学習課題を見いだすための手立ての工夫

研究のねらい

個々の児童が自ら学びたい、追究したいという学習課題を見だし、試行錯誤を重ねながら課題解決を進めるとともに、これらの学びに協働的に、繰り返し取り組み、求められる三つの資質・能力をバランスよくはぐくみ、豊かなスポーツライフの実現につなげる。

研究の内容

- ①10の領域別部会による実証授業の実施（年間2回）
- ②夏季合同研究会（8月）における研究協議の実施
- ③研究発表大会における研究の報告（令和4年2月）
- ④月1回開催の正副部長会における情報共有と研修会



小体研 HP

成果

子供一人一人を学習の主体として、個々の能力や興味・関心に
応じた学習課題を見いだしたり、それを解決したりする過程を工夫
したことにより、各運動領域の特性に応じて、より主体的・協
働的に学びをすすめることができた。

課題

個々の子供が見いだした学習課題をより確かに解決していくこ
とのできる資質・能力を育むために、子供自身の自己評価能力を
育成していく手立てが必要である。また、教師自身が子供の学び
を把握していく評価の在り方を検討する必要がある。

今後の活動予定

- 研究発表大会
令和4年2月25日（金）
・江戸川区立平井小学校
・小平市立小平第十二小学校
2校で同時開催 会場間オンライン中継

代表者・連絡先

代表者：
荒川区立尾久小学校 校長 大橋 昭彦
連絡先：
江戸川区立平井小学校 校長 山下靖雄
03(3613)9311 yasuo-yamashita@city.edogawa.tokyo.jp

団体名 東京都小学校道徳教育研究会

団体の概要

昭和37年に発足し、59年の歴史をもつ研究団体である。東京都の道徳教育の推進並びに会員相互の研鑽を図ることを目的とし、213名の会員が、力を合わせて研究に取り組んでいる。

研究テーマ

自ら感じ考え、他者と対話し協働しながら、
よりよい方向を目指す資質・能力を育成する道徳教育
～自己を見つめ、生き方についての考えを深める道徳科指導～

研究のねらい

社会が大きな変化に直面する中で、児童が社会を構成する一人一人として未来を力強く切り拓いていくための資質・能力である道徳性を養うことを目指し、各区市町村の道徳教育研究会と連携をとりながら、東京都の道徳教育を推進していく。

研究の内容

- 研究部** 研究主題や副主題について、論理的分析を図りながら授業実践を行い、研究を深めていく。
- 研修部** 授業研究を通して、よりよい指導方法や評価の在り方について授業実践を通して広めていく。
- 調査部** 児童の意識、指導の工夫、評価等に関する調査の結果を基に授業研究を行い、効果的な指導法を探る。
- 事業部** 多摩地区における各市町村の道徳教育研究会と連携して研究会や研修会を行い、道徳教育の推進に努める。

成果と課題

- 成果** 各部で研究テーマに基づく研修や授業研究を実施し、道徳科指導の推進に取り組むことができた。
- 課題** 今後も児童の実態に応じた効果的な方法を開発し、取り入れて行く必要がある。

今後の活動予定

- 東京都小学校道徳教育研究会
第59回臨時総会・研究発表会
令和4年1月24日(月)
江東区立有明小学校
- 全国小学校道徳教育研究会
第44回研究発表大会
令和4年2月10日(木)
台東区立根岸小学校

代表者・連絡先

- 代表者
江東区立有明小学校
校長 赤堀 美子
連絡先：03(3527)5102
- 板橋区立志村坂下小学校
校長 松野 薫子
連絡先：03(3550)0346

東京都小学校特別活動研究会

団体の概要

- 昭和37年に設立（初代会長：高杉 新作）
- 昭和39年度に研究収録第1号、会報「都特活」第1号が発刊
- 創設以来半世紀以上にわたって特別活動への熱き情熱に支えられ、質の高い特別活動の授業の創造と普及に取り組んできた研究団体

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、
自己のよさを生かす特別活動」



主題設定の背景及び理由

新学習指導要領の実施に伴い、昨年度から新たな研究主題で2年目の研究となる。

改めて、特別活動において育成を目指す資質・能力における重要な要素として、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点について研究を深める必要性を感じている。

また、ICTの普及、SNSが一般化する現代において、文字で互いの意思を交換する文化が確立しつつある中、人と人のあたたかな言葉のやり取りや、フェース to フェースで意思確認する経験の積み重ねは大変重要なことであると考えます。さらに、2年前から続くコロナ禍における、人と人を分断する状況下だからこそ、会話を伴わない違う方法を見付け出すだけではなく、細心の注意を払った上で、人と人とのコミュニケーションを大切にすることも大事なことです。こういった時代背景を鑑みたく、特別活動の果たす役割を十分に認識し、今年度の研究を進めていく所存です。

研究の内容

2030年の社会を見据え、そこで生きて働く力を育成するために示された新学習指導要領の実現を目指し、特別活動で育成する資質・能力を子供たちに身に付けられるよう、東京都の特別活動を推進するという気概と責任をもって研究に取り組む。

- 全体主題の下に各研究部の研究構想・具体的な手だてを模索し、研究の方向性を探る。
- 各研究部が年間2本（4研究部 計8本）の研究授業を設定し、検証・成果追及を行う。
- 研究の成果と課題について研究紀要にまとめ、2月の研究発表会にて報告を行う。

研究発表会を開催します。
都小特活で検索 HPで参加申込
※リモート開催に変更する場合有 HPで要確認
日時：令和4年2月25日（金）13：30～
会場：大田区立入新井第五小学校 体育館
本研究会の研究について報告と発表を行い、
文部科学省初等中等局教育課程課教科調査官
安部恭子先生による記念講演を予定

会長 岡野 範嗣
大田区立入新井第五小学校 校長
〒143-0016 大田区大森北 6-4-8
TEL 03-3762-6438
事務局 笹間 伸也
大田区立羽田小学校 校長
〒144-0043 大田区羽田 3-3-14
TEL 03-3741-5682

東京都小学校プログラミング教育研究会

団体の概要

「東京都小学校プログラミング教育研究会」は、東京都内小学校におけるプログラミング教育普及と充実を図り、教職員の資質向上に寄与すべく、都内の教職員が中心となり、研修会やプログラミング教育に関するイベントを企画し運営、実践を重ねている。また、プログラミング教材研究や情報提供を行っている。

研究テーマ

「全ての子供と教師がプログラミングを楽しむ東京都にする」

研究のねらい

身近なもの・ことにプログラミングが関わっていることを、コンピュータを用いて体験的に理解し、活用する楽しさを実感させる。

研究の内容

- ・プログラミング教育の研究・資料作成・実践
 - ・サイトなどでプログラミング教育関連の情報発信
- 東京都教職員研修センターとの連携研修を開催し、都内教員に実践報告や教材の実践方法の紹介を行った。また、事例発表、研究全体会(NPOや、企業等と連携したワークショップ)を行ったり、公開授業を行ったりした。

研究の成果と課題

【成果】東京都教職員研修センターと連携研修をオンデマンドで行った。参加者が実践やプログラミング教材を知る機会を設けた。その他、本研究会が主催する研修会等で、都内及び全国の教員に向けてプログラミング教育について研鑽を深める機会を提供した。

【課題】GIGAスクール構想下の教材研究やカリキュラム開発、情報提供を強化・継続し、中・長期的な視点での取組が必要である。

今後の活動予定

プログラミング教育に向けて、各地域の研修・授業支援を行う。プログラミング教育について実践の波及と資質の向上の両輪で研究に取り組む。

代表者・連絡先

代表者：松野 泰一
杉並区立天沼小学校長
連絡先：03-3392-6428
MATUNO-YASUKAZU@city.suginami.lg.jp
https://www.suginami-school.ed.jp/amanuma_es/

団体名 東京都小学校学級経営研究会

団体の概要

東京都の小学校教員を対象に、学級(学年)経営の研究に取り組んでいる研究会です。学級経営に関する知識・技能などの専門性を育成するための研究活動等を通して、教員の指導力向上を目指しています。

研究テーマ

「未来を拓き、生きる力を育む学級経営」
～ 学びに向かう学級集団づくり ～

研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

学習分科会、生活分科会、環境分科会、連携分科会の4視点で、具体的な手だてを追求し、取り組みの実践例および集団の変容から研究の成果と課題をまとめています。

取組の内容

- ① <講演会> 令和3年5月17日 ～実施～
- ② <夏季研究会> 令和3年8月6日 ～中止～
- ③ <研究発表大会> 令和4年1月28日 ～オンライン発表～
 - ・研究発表会・研究紀要
 - 第48回 全国学級経営研究大会東京大会
 - 第54回 東京都小学校学級経営研究大会
 - ・研究実践報告
 - 兵庫県、神戸市、栃木県、埼玉県、川崎市、東京都
 - 大会開催校報告
 - (東京都東村山化成小学校)
- ④ <その他>
 - ・「会報」発行
 - ・「学級経営ハンドブック」発行
 - (3月下旬 東京都全公立小学校へ配布)



都学級経営研 HP

※令和3年度 of 取組変更は新型コロナウイルス感染症対策のため。

今後の活動予定

<令和3年度の学級経営研究大会>
日時: 令和4年1月28日(金)
場所: 東村山市立化成小学校
内容: オンライン開催 午後1時40分～
※ どうぞご参加ください!

代表者・連絡先

代表者: 東村山市立化成小学校
(会長) 校長 武田 憲明
連絡先: Tel 042-391-8111
noriaki-takeda@higashimurayama.ed.

団体名 東京都小学校児童文化研究会

団体の概要

東京都小学校児童文化研究会は、昭和35年に発足した。以来、長年にわたり、豊かな創造性や人間性を養うため、楽しい授業を創造するために研究してきた。児童文化の手法を用い、児童の興味・関心を引き出しながら、集団活動の楽しさや素晴らしさを体験させることをねらいにして、全ての教科で実践研究を重ねてきている。

研究テーマ

コロナに負けるな！みんなでつくろう楽しい授業
～児童の心をつかむ児童文化手法～

研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

毎年、都内公立小学校で研究発表大会を行っている。コロナ禍においては、工夫した研修会を開催した。今年度は、活動に焦点を当て、児童文化的手法を用いた学習劇について研修会を行った。

取組の内容

各学校で行われている学芸会や学習発表会について、脚本選定や演劇の演出、舞台設備に関する内容について研修を行った。児童の動きを引き立たせる演出や効果的な舞台設備の活用に関する講座と実際の脚本を舞台化する講座を2日間行った。

成果

2日間で50名の教員が参加した。一つの脚本を演劇として上演するためのプロセスには、一定の決まりが存在することを確認した。その過程について、好事例の紹介や演習を通して学ぶことができた。受講者アンケートの結果から、児童への指導に生かしたいという意見が多くあった。

課題

演劇の研修会は、実技・演習が伴うため、対面での実施が望ましい。しかし、コロナ禍において、安全に配慮し、オンラインによる研修とした。オンライン研修により、演技者の意識や行動の変化を詳細に伝えることが難しく、課題として残った。

今後の活動予定

次年度は、研究発表大会を開催し、全ての部（学校劇部、童話部、ゲーム部、ダンス部、パネルシアター部、総合表現部）が実践研究の成果発表を行う。

代表者・連絡先

代表者：葛飾区立鎌倉小学校
校長 宮内 和彦
連絡先：品川立浅間台小学校
校長 高橋 健一
03(3474)2727

団体名 東京都小学校性教育研究会

団体の概要

本研究会は昭和54年に発足しました。学校での性教育の在り方について研修会や研究授業を通して研究を推進してまいりました。性教育に関する情報共有や課題解決にも取り組んでおります。

研究テーマ

「学校における性教育の在り方」
～性教育の手引きをもとに～



講師：東京都多摩教育事務所
統括指導主事 美越 英宣氏

研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

平成31年3月東京都教育委員会発行の「性教育の手引き」を基に統括指導主事からその概要や指導上の留意点、効果的な指導について指導・助言をいただきました。

取組の内容

「性教育の手引き」の理解を深めた後、各校における性教育の実践へつながるよう実践事例の紹介や、各校での課題についてオンラインを活用した研修会を開催しました。会員相互の情報共有も図りました。

成果

統括指導主事から御指導いただいたことで「性教育の手引き」の具体的な活用につながりました。実践事例からは、性教育を推進する際の参考となりました。また、授業展開の見通しももつことができました。

課題

具体的な実践事例や研究授業を中心とした研修の必要性が課題です。また、オンラインを活用した研修会では、PC機器準備をはじめ環境整備等万全を期してもトラブルが発生しました。感染症対策に留意しながら研修を進めていくことも求められました。

今後の活動予定

対面での研修会が可能となれば、研究授業も検討します。性教育の在り方について第一線で御活躍の講師を招聘した研修会を予定しています。

代表者・連絡先

代表者：
北区立八幡小学校 校長 大田 裕子
連絡先：
北区立八幡小学校 校長 大田 裕子
03(3900)7232 oota-fb9@city.kita.lg.jp